

近代百物語

三

2294

一八九

板
卷之六
百和譜
三

共四
千五百
出景



本東



近代百物語卷三

野馬一ぬね仕合者

杉島路波へ我日のりく此大湊あさひれ及敷と

し金浪脚下にこ寝めくといは西松ぞりよるん昨日

中で尻めくげい草鞋とあわ人の供まつれり男もろふ

とまきちち引くて至既中に思純飯糰一合は蓋

ひして豆腐を賞しゆり人も奥松とよふ名のほくも

實は土地のゆぞうし今ハむうハクン屋のやせりり

松屋万者とりよ人あり生治あれさひれとらにわいこく

日夜東西こそくましくいふされ身されども月書花



一はゆきまのし先うごんゆきまのまのめしぬ人一は長
安とりの医者わろしぐはの中このまをうたはれ
花四方の咲きまはる方もはうれさそよあそと
おとゆきま安東内へまをり時中のまをん橋ま
今ゆきまの安へまをいざせまときをりなご
こそあそまのまのうれ我ゆ中まをん人の先ま
おゆきまの東へまをりまの山三上山の花まの
ふゆきまのまをりまの風情まをりまのまをり
境へまをりまのまをりまのまをりまのまをり
まのまのまをりまのまをりまのまをりまのまをり

見やゆきまのし先うごんゆきまのまのめしぬ人一は長
安とりの医者わろしぐはの中このまをうたはれ
花四方の咲きまはる方もはうれさそよあそと
おとゆきまの安東内へまをり時中のまをん橋ま
今ゆきまの安へまをいざせまときをりなご
こそあそまのまのうれ我ゆ中まをん人の先ま
おゆきまの東へまをりまの山三上山の花まの
ふゆきまのまをりまの風情まをりまのまをり
境へまをりまのまをりまのまをりまのまをり
まのまのまをりまのまをりまのまをりまのまをり

ぞく流中をせうのあはだくしけりしわぶあといふ
髪よむのうらおどろけししくとせべけるの尻はあ
一目はわて毒家とおひのぞけりうまんのあま
大智あびま安とよび出せば牛乳やより目かすりくよ
ろめおくる泥まもれたぐひは形紙を合せてたされそ
あとももさうしーやう

麿ぬりて鏡屋ぐり導

女よ又障の飛あつとつみもま悪痛よりおらぶゆぞ
うし今へむうし上総の必八尾村とつし西へあんだや
吉助とて割れたことを責めて世はおろの意業すう

もおろしやうしうし知ちく出てとへんと責まりの船は
中へ割るをど油りしゆひ紙書筆さど一舟うしと
食はた盤し入色所くをた賣わすく女房おせんはまの
毎に刃をあささひとたたこの髪ざり吉助へ喚よらび
宿しおろし洗髪一夕服とくやいさや又切をんよお
あしを夜まのこみ茶一入色並りる風面香の目と
すうもあし瓜やまわばうそえ目さうのひ中たのし
まふゆを衣於法最にお意よ史娘のわびごむりま
世はおのりくわしりけり或し史娘は宴したぐひよ
ほらあひ世をむり吉助おせんよへひらりへそあうと

新更ぬしうりし十ひの事りぬおろす中に男子一人ありたれ
しも^{さきうら}驚風してむろくちたすものちれひひおよぶども
今一出生ぬるべしとやけのち子へある海道人の
生死へえうんぬれど^{かた}救うされざるゆゆら^{かた}びたうこの来平
七とま^{かた}まよとしてたれたしや一せぬおろすべしといし
移んごろし^{かた}かじりしうのおせんも^{かた}愛ふと^{かた}たわひつひ
ぐ^{かた}去病の由ありたれば^{かた}さんぞ^{かた}されまらうめ^{かた}べた^{かた}移り
へ^{かた}平日^{かた}一^{かた}肝^{かた}積^{かた}あ^{かた}れ^{かた}つ^{かた}の^{かた}ぞ^{かた}へ^{かた}を^{かた}愈^{かた}し^{かた}死^{かた}す^{かた}さん^{かた}と^{かた}あり
し^{かた}た^{かた}あり^{かた}一^{かた}の^{かた}移^{かた}ぐ^{かた}ひ^{かた}お^{かた}け^{かた}へ^{かた}さ^{かた}れ^{かた}た^{かた}され^{かた}し^{かた}お^{かた}が^{かた}ア^{かた}ハ
これぞとてあまぐとき^{かた}の^{かた}と^{かた}れ^{かた}へ^{かた}去^{かた}病^{かた}も^{かた}と^{かた}り^{かた}一^{かた}笑

ひ^{かた}移^{かた}ぐ^{かた}ひ^{かた}とい^{かた}う^{かた}ち^{かた}の^{かた}移^{かた}ぐ^{かた}ひ^{かた}は^{かた}移^{かた}ド^{かた}あり^{かた}ゆ^{かた}や^{かた}ハ
お^{かた}け^{かた}し^{かた}く^{かた}お^{かた}と^{かた}き^{かた}べ^{かた}し^{かた}ま^{かた}ら^{かた}う^{かた}去^{かた}病^{かた}し^{かた}や^{かた}ま^{かた}い^{かた}ぞ^{かた}ん^{かた}去^{かた}病
し^{かた}ま^{かた}り^{かた}の^{かた}人^{かた}さ^{かた}ば^{かた}り^{かた}た^{かた}る^{かた}ま^{かた}し^{かた}ハ^{かた}何^{かた}考^{かた}れ^{かた}ゆ^{かた}ぞ^{かた}と^{かた}あ^{かた}ぬ
ま^{かた}ば^{かた}お^{かた}せん^{かた}し^{かた}移^{かた}ぐ^{かた}ぬ^{かた}を^{かた}及^{かた}へ^{かた}く^{かた}傍^{かた}に^{かた}さ^{かた}し^{かた}と^{かた}せ^{かた}小^{かた}夢^{かた}し
ま^{かた}り^{かた}と^{かた}移^{かた}身^{かた}の^{かた}移^{かた}ぐ^{かた}ひ^{かた}れ^{かた}ま^{かた}ま^{かた}ぐ^{かた}と^{かた}や^{かた}も^{かた}中^{かた}く^{かた}和^{かた}し^{かた}し^{かた}た^{かた}れ^{かた}
や^{かた}ま^{かた}ぬ^{かた}も^{かた}ま^{かた}し^{かた}ゆ^{かた}ら^{かた}ひ^{かた}され^{かた}べ^{かた}つ^{かた}ま^{かた}だ^{かた}め^{かた}の^{かた}し^{かた}ち^{かた}ら^{かた}とい^{かた}ふ^{かた}
ま^{かた}ま^{かた}の^{かた}名^{かた}業^{かた}し^{かた}や^{かた}せ^{かた}ゆ^{かた}し^{かた}と^{かた}情^{かた}氣^{かた}う^{かた}く^{かた}死^{かた}して^{かた}ま^{かた}ま^{かた}
引^{かた}ま^{かた}け^{かた}れ^{かた}燈^{かた}を^{かた}た^{かた}ら^{かた}し^{かた}と^{かた}り^{かた}と^{かた}し^{かた}ん^{かた}ゆ^{かた}は^{かた}し^{かた}月^{かた}の^{かた}ま^{かた}げ
ま^{かた}ぞ^{かた}り^{かた}し^{かた}何^{かた}し^{かた}と^{かた}七^{かた}日^{かた}は^{かた}家^{かた}し^{かた}と^{かた}め^{かた}衣^{かた}裳^{かた}と^{かた}も^{かた}あ^{かた}ら^{かた}ま^{かた}あ
て^{かた}紅^{かた}粉^{かた}白^{かた}粉^{かた}と^{かた}粧^{かた}し^{かた}や^{かた}お^{かた}せん^{かた}し^{かた}ま^{かた}ま^{かた}し^{かた}し^{かた}り^{かた}と^{かた}と^{かた}ま^{かた}ま^{かた}

どのといふしどかたへ来たを切しとする事なま
 吾分なとらたりと一夜その色二夜とせられ之方
 におくは皆と気味所く遠くは吾分なとらよりと
 又毎いふふも夜ににあつたをうり借へぬよと
 夜昼のとうちをなればお氣もつれぬていませ
 一命亡者れもあたらうかべ一巻のい七日した
 ざらよ舞送やぶすのうらぶあかそらうさひうさ
 ちかちか鬼も地もさか我といふれうう人の鏡よ
 みて見るこく何とぞてけ鏡と透まんといおの
 ちまへさひひとさかたあしめ日月の登まへ鏡さ



狐の湯
 ほろろ
 女
 ほろろ
 ちとあられ
 ううま
 のぐねび
 こぞ

一くあふもれりたんくせらうくあれびあてん
ももろぬきとて家せんより後にしつうあてさう海い
と何ろあぞ世いりりれ想と知し移すしれ我史やとんを
ぞくあ死のり生りりり死のり万劫中てととせれ十
と心しとあくかひもきくいとさあてて恨とのり
らひ一暇途いささひ世んとし移れ死出せへめとを
おどろさ信りの中んと死入世バ二いうよまのぬきを
介背さうたにきくはるらびりれとこれあの一清と
とのと遺るぬき一めんじとびりめもバ命あつと
のがと死しを申しかりてへしと出あてん信ずる光

とやう言をきけくわにすせてみ六所あげ
てゆりいせバもどめた中らぬをいふひじよよ
大いありサもぬ一書どけあて中をりてのづんやう
さるれどもりも天のたすけもあんと被谷川よざん
ぬと死らもむもいれきに遠あづんバ女も川のさく
中で追入りが大人あわけさんぢぬ中てのあくま
あはぬあさうもあさうしがあつるさんえんのかか
ものきさう今念佛せりこれ中てあてとつひ捨
悪種んさんバ死かびのハあよあさうひさうしゆく西の人
くあひまんとて糸代末守の種うとて死のちのぬき

